

生命科学・医学系研究実施のお知らせ

東京慈恵会医科大学倫理委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

本研究に関する内容の詳細等、お知りになりたい方は下記【問い合わせ先】までご連絡ください。なお、試料・情報が本研究に用いられることについて、研究の対象となる方（もしくは代理人の方）にご了承いただけない場合は研究対象から除外いたしますので、下記【問い合わせ先】までお申し出ください。

【研究課題名】	診療情報と残存検体を基盤とした小児難治性悪性軟部肉種に対する新規治療薬の探索		
1. 研究の目的と方法	小児の難治性悪性軟部肉種（悪性ラブドイド腫瘍、悪性末梢神経鞘腫、胞巣型横紋筋肉腫など）は、希少な小児がんであり、体の様々な場所から発生する極めて悪性度の高い軟部組織腫瘍です。発症年齢が低いことも多く、生まれつき持っている遺伝子の影響で発症する患者さんが多いことが分かってきましたが、病気の難しさや患者さんの数が少ないことから、依然として難治性のままとなっています。 いまだに治療が難しいこの病気に対して、将来の治療につながる薬の候補を見つけ、その仕組みを明らかにすることを目指して、この研究では、実験動物であるショウジョウバエと、小児難治性悪性軟部肉種の患者さんの診療情報や残存の腫瘍組織を使って、治療の標的になり得るキナーゼ（がん細胞が増殖する原因と考えられる、体の中の酵素のこと）や治療効果があるかもしれない薬の化合物を探索・評価します。		
2. 研究期間	倫理委員会承認日～2027 年 3 月 31 日まで、研究の実施を予定しています。		
3. 対象となる方等	小児の難治性悪性軟部肉種（悪性ラブドイド腫瘍、悪性末梢神経鞘腫、胞巣型横紋筋肉腫など）の患者さんで、2000 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日の間に東京慈恵会医科大学附属病院小児科にて診断あるいは治療を受けた、20 歳未満の方。		
4. 研究に利用する試料・情報について	(1) 試料の種類	病理プレパラート、腫瘍ブロック検体	
	(2) 試料の取得の方法	診断あるいは治療のための手術の時に切除し、当院で保存されていた組織の一部を使わせていただきます。	
	(3) 情報の種類	①生年月、性別、腫瘍部位、診断時期、治療歴、予後情報、遺伝子検査結果 ②小児の難治性悪性軟部肉種と関連していると考えられるキナーゼの変化の様子	
	(4) 情報の取得の方法	①については、診療録から診断・治療時のデータを収集します。 ②については、当院で保存されていた検体を、新たに解析して取得します。	
5. 研究の実施体制	あなたの試料・情報は、以下の研究者が研究のために利用します。 試料・情報は、(3)の管理責任者が責任をもって、保管・管理します。		
	(1) 当施設の 研究責任者 または研究 代表者	研究機関名	東京慈恵会医科大学 小児科学講座
		氏名	大石公彦
	(2) 当施設の長	東京慈恵会医科大学 学長 松藤千弥	

	(3) 当施設の 試料・情報の 管理責任者	東京慈恵会医科大学 小児科学講座 助教 本間大器
	(4) 共同で研究 を実施する 施設とその 責任者	北海道大学遺伝子病制御研究所 がん制御学分野 教授 園下将大 (所長：村上正晃)
6. 試料・情報を他 機関とやり取り することについて	この研究で収集・取得された試料・情報は、患者さんのお名前やカルテ番号などの個人情報削除し、新たに研究用の ID や番号をつけた状態で、東京慈恵会医科大学と北海道大学のこの研究の研究者間で共有されます。 提供方法：パスワードを掛けた電子ファイルをメール送付 試料・情報の利用または提供予定開始日：2025 年 8 月頃～	
【問い合わせ先】	機関名：東京慈恵会医科大学 小児科学講座 研究責任者：教授 大石公彦（おおいし きみひこ） 窓口担当者：准教授 秋山 政晴（あきやま まさはる） 助教 本間 大器（ほんま たいき） 電話番号：03-3433-1111（内線 3321） 対応時間：平日 9:00 ～ 16:30	

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。

研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。